

## ブナ等の結実状況に関する緊急調査

## 1 調査の内容

## (1) 調査時期

平成 16 年 10 月 15 日（金）～ 21 日（木）

## (2) 調査地区

調査は、都道府県の出先事務所の管轄区域を基本的な単位とし、調査の集計上これを調査地区（以下単に「地区」という。）とした。

## (3) 調査事項

ブナ及びミズナラの結実状況

結実状況への影響要因

クマの目撃状況

## (4) 調査方法

林野庁が都道府県の森林保護担当部局に照会して集計したもの。

なお、都道府県では、出先事務所の担当者が、森林組合職員等現地の事情に精通している者からの聞き取り等により調査表を作成した。

## (5) 地域区別の地区数（表－1）

調査結果の集計対象としたのは、32 府県内の 166 地区である。

なお、ブナ及びミズナラの結実状況が地域性を有することから、集計に当たっては、気候や地理的要素等を考慮した 5 つの地域に区分した。

表－1 地域区別の地区数

地域区分	都府県数	該 当 都 府 県	地区数
日本海側地域	10	秋田、山形、新潟、富山、石川、福井、京都、兵庫、鳥取、島根	49
うち北陸3県	3	富山、石川、福井	14
内陸地域	8	栃木、群馬、埼玉、山梨、長野、岐阜、滋賀、奈良	47
太平洋側地域	12	岩手、宮城、福島、東京、神奈川、静岡、愛知、三重、和歌山、大阪、岡山、広島	55
その他地域	2	青森、山口	15
全国の総計	32		166

(注) 1) 日本海側地域とは、青森、山口県を除く日本海側に管内の海岸線を有する府県とする。

2) 内陸地域とは、管内に海岸線を有しない県とする。

3) 太平洋側地域とは、青森、山口、兵庫県を除く太平洋側に管内の海岸線を有する都府県とする。

## 2 調査の結果

### (1) ブナの結実状況(表-2)

全国の総計では、凶作の地区が全体の約5割(166地区のうち74地区)で最も多いが、それに次いで並作が約3割(46地区)となった。

地域別に見ると、日本海側地域では凶作の地区が約9割(49地区のうち45地区)という非常に高い割合となり、北陸3県でも同様(14地区のうち12地区)の傾向となった。

一方、太平洋側地域では並作の地区が最も多く全体の約4割(55地区のうち22地区)を占めた。

また、内陸地域では並作の地区が約3割(47地区のうち16地区)であるが凶作は約2割(11地区)にとどまった。

表-2 ブナの結実状況

地域区分	地区数						比率(%)					
	豊作	並作	凶作	生育無	不明	合計	豊作	並作	凶作	生育無	不明	合計
日本海側地域	0	3	45	0	1	49	0	6	92	0	2	100
うち北陸3県	0	1	12	0	1	14	0	7	86	0	7	100
内陸地域	8	16	11	4	8	47	17	34	23	9	17	100
太平洋側地域	1	22	17	5	10	55	2	40	31	9	18	100
その他地域	2	5	1	6	1	15	13	33	7	40	7	100
全国の総計	11	46	74	15	20	166	7	28	45	9	12	100

(注) 1) 結実状況は、調査時点における着果量(枝に付いている種子の量)が、例年と比べて、多い場合(豊作)、例年並みの場合(並作)、少ない場合(凶作)の3とおりで評価した。

なお、生育無とはブナ又はミズナラが管内に生育していない場合である。

2) 比率(%)を区分別に合計した値は、四捨五入の関係で必ずしも合計と一致しない。

( 2 ) ミズナラの結実状況 ( 表 - 3 )

全国の総計では、凶作の地区が全体の約 3 割に当たる 54 地区となり、並作の地区が同数で並んでおり、凶作の傾向はブナよりも幾分弱い結果となった。しかし、日本海側地域では、凶作の地区が全体の約 8 割に当たる 38 地区、このうち北陸 3 県については凶作の地区が約 9 割 ( 14 地区のうち 13 地区 ) となり、ブナと同様にミズナラについても凶作の割合が非常に高くなった。

しかし、太平洋側地域においては、凶作の地区は約 1 割 ( 55 地区のうち 6 地区 ) にとどまり、逆に並作と豊作の地区 ( それぞれ 25 地区と 8 地区 ) で全体の約 6 割を占めた。

また、内陸部でも凶作の地区は約 2 割 ( 47 地区のうち 9 地区 ) であったが、並作と豊作の地区 ( それぞれ 19 地区と 13 地区 ) は全体の約 7 割となった。

表 - 3 ミズナラの結実状況

地域区分	地 区 数						比 率 ( % )					
	豊作	並作	凶作	生育無	不明	合計	豊作	並作	凶作	生育無	不明	合計
日本海側地域	4	7	38	0	0	49	8	14	78	0	0	100
うち北陸 3 県	0	1	13	0	0	14	0	7	93	0	0	100
内陸地域	13	19	9	2	4	47	28	40	19	4	9	100
太平洋側地域	8	25	6	5	11	55	15	45	11	9	20	100
その他地域	4	3	1	6	1	15	27	30	7	40	7	100
全国の総計	29	54	54	13	16	166	17	33	33	8	10	100

( 注 ) 表 - 2 の ( 注 ) に同じ。

( 3 ) ブナ等の結実状況に影響を与えたと考えられる要因 ( 表 - 4 )

ブナ、ミズナラの結実状況の悪化に台風が影響を与えた可能性をあげた地区の割合は、日本海側地域で約 4 割 ( 49 地区のうち 21 地区 )、北陸 3 県では約 8 割 ( 14 地区のうち 11 地区 ) となった。

また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ現象の可能性をあげた地区は、日本海側地域においても 2 割弱 ( 49 地区のうち 8 地区 ) にとどまり、北陸 3 県では 14 地区のうち 1 地区のみであった。

表 - 4 ブナ等の結実状況に影響を与えたと考えられる要因

地域区分	地区数合計	台 風		カシノナガキクイムシ	
		地区数	比率 ( % )	地区数	比率 ( % )
日本海側地域	49	21	43	8	16
うち北陸 3 県	14	11	79	1	7
内陸地域	47	9	19	3	6
太平洋側地域	55	8	15	0	0
その他地域	15	6	40	0	0
全国の総計	166	44	27	11	7

( 注 ) 1 ) 調査表において、ブナ等の種子の豊凶に及ぼす要因について考えられる事項として記載されたものを集計した。

2 ) 台風については強風や豪雨によって種子や花芽が落下すること及びカシノナガキクイムシについては媒介されるナラ菌によって引き起こされるナラ類の枯損被害などをさす。

3 ) 比率 ( % ) は、集計した地区総数に対する該当地区数の割合である。

(4) 凶作地区におけるクマの目撃状況(表-5, 6)

1) プナの場合は、凶作とされた74地区(全国の総計)のうち約8割に当たる59地区でクマの目撃件数が昨年より増加した。このうち日本海側地域では、凶作とされた45地区の96%に当たる43地区、北陸3県では12地区の全てにおいてそれぞれ目撃件数が増加した。

表-5 プナの凶作地区におけるクマの目撃状況

地域区分	地区数					比率(%)				
	増加	同程度	減少	無	合計	増加	同程度	減少	無	合計
日本海側地域	43	2	0	0	45	96	4	0	0	100
うち北陸3県	12	0	0	0	12	100	0	0	0	100
内陸地域	7	4	0	0	11	64	36	0	0	100
太平洋地域	8	4	4	1	17	47	24	24	6	100
その他地域	1	0	0	0	1	100	0	0	0	100
全国の総計	59	10	4	1	74	80	14	5	1	100

(注) 1) 目撃件数の増減傾向を、昨年より多い(増加)、同じくらい(同程度)、少ない(減少)、出没情報が無い(無)の4つに区分した。

2) 比率(%)を区分別に合計した値は、四捨五入の関係で必ずしも合計と一致しない。

2) ミズナラの場合は、凶作とされた54地区(全国の総計)のうち約9割に当たる49地区でクマの目撃件数が昨年より増加した。このうち日本海側地域では、凶作とされた38地区の95%に当たる36地区、北陸3県では13地区の全てにおいてそれぞれ目撃件数が増加した。

表-6 ミズナラの凶作地区におけるクマの目撃状況

地域区分	地区数					比率(%)				
	増加	同程度	減少	無	合計	増加	同程度	減少	無	合計
日本海側地域	36	2	0	0	38	95	5	0	0	100
うち北陸3県	13	0	0	0	13	100	0	0	0	100
内陸地域	8	1	0	0	9	89	11	0	0	100
太平洋側地域	4	2	0	0	6	67	33	0	0	100
その他地域	1	0	0	0	1	100	0	0	0	100
全国の総計	49	5	0	0	54	91	9	0	0	100

(注) 表-5に同じ。